

## 令和4年度 第2回紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録要旨

【開催日時】 令和4年10月31日（月） 13時30分から14時30分まで

【開催場所】 紀の川市役所 本庁3階 庁議室

### 【出席者】

○紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会（委員8名内7名出席）

仁藤委員（近畿大学生物理工学部地域交流センター センター長）

野村委員（紀の川市立地企業連絡協議会 会長）

林委員（和歌山県 那賀振興局長）

川口委員（株式会社日本政策金融公庫和歌山支店 支店長）

上野山委員（和歌山公共職業安定所 所長）

中村委員（株式会社和歌山放送 代表取締役社長）

赤井委員（紀の里農業協同組合総合企画部 部長）

○事務局（企画部 企画経営課）（4名）

角企画部長、栗本企画部次長兼課長、今井班長、辻副主任

○傍聴人（1名）

那賀振興局 地域課：白井課長

### 【欠席委員】

半田委員（紀の川市自治連絡協議会 会長）

### 【会議の概要】

1. 開会（司会：栗本次長）
2. 挨拶（仁藤会長）
3. 第2期紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について（説明：事務局）
4. 議題

○議長（仁藤会長）

「会議を公開」するために簡潔に取りまとめた議事録の公開の承諾。

委員の過半数以上が出席しているため、会議が成立していることを報告。

（1）紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について（説明：事務局）

基本目標評価シートを資料とし、各基本目標の「数値目標の状況」・「KPI（重要業績評

価指標)の状況」を中心に、数値の分析結果や進捗状況を説明。

また、委員からいただいた意見を踏まえた「審議会による検証結果」(案)について説明を行い、追記・修正、質疑等の審議を求める。

#### 【質疑】

委員：紀の川市にとって今がターニングポイントになっていると感じている。人口について社会減が続いていた状況から社会増になることは、エポックメイキングなことであるし、和歌山県内他自治体でも社会増は中々みられない状況。人口動態に関する分析はできているのか。

事務局：具体的な分析はできていないが、現在実施している若者定住促進住宅取得奨励金事業や奨学金返還支援事業助成金が、少しは社会増に寄与していると考えている。新型コロナウイルスの影響もあって人口移動が鈍くなっていることも考えられる。

事務局：用途地域の見直しもあり、宅地開発が進むきっかけになった。元々、農地から宅地への転用が難しかったところが、住宅開発ができるようになったことが大きい。

委員：京奈和関空連絡道に非常に興味がある。この地域にとって非常に有益なもの。IC周辺の土地利用構想について、農業に絞った開発ではなく、工業等への発展もあるのではないか。

事務局：IC周辺の土地利用構想は、農地を増やすことを意図しているわけではなく、農業や農産物を活用して、地域の稼ぐ力を増やすことを目指すもの。

委員：転入者の年齢を考えて有効な施策を講じていると思う。最近では明石市が非常に有名になっているが、紀の川市も遜色は無いように思うがどう評価しているのか。

事務局：明石市は市長のシティプロモーションへの思いがあって、強力に発信していく力があつた。紀の川市は以前にもお話があつたように発信力不足にあると思うので、今後もご助言等をいただければと思う。給食費無償化など、施策は当市も充実していると感じている。

委員：インキュベータ教育やICT教育の充実に取り組んでいることは評価できる。自分の思いでもあるが、農業が紀の川市の強みであるし、稼ぐことができる産業である。教育と農業を結びつけて、もし紀の川市で育つた子供が紀の川市を一度離れたとしても、また紀の川市へ戻ってきて農業に従事してもらえるような循環が起これば良いと思う。

事務局：紀の川市で育つた子供が紀の川市に戻ってきてもらえるように、シビックプライドを醸成する事業を次年度以降に展開していければと思っている。

委員：新規就農であると、土地などの問題があり限界があると思う。すでに実施していると思うが、親元就農の支援の強化が今後の農業を維持していくためにも必要。

事務局：親元就農の制度周知などの情報発信が必要。もし、親元に帰ってきた場合でも、ち

やんと収入があげることができる仕組み、安心して就農できる仕組み作りや支援が大切だと考えている。例えば、6次化などの選択肢があれば良いと考える。

事務局：しっかりと農業で所得を得られることが大切。IC周辺の土地利用構想と連動しながら、農業が稼ぐことができるビジネスモデルとなることを目指していきたいと考えている。そうすることで、新規就農者が増える方向へつながればと思う。

委員：県内で人口が増えている自治体は少ない。今後の行政を進めていくうえでも、人口動態への注視が必要。その中で農業へ回帰している動向があるのか、どのようなニーズがあって社会増が起こっているのか、深く分析して欲しい。

事務局：近隣の市の間で転出入が多いのは分かっている。転入者の年齢層の分析からみても、子育て世代が紀の川市を選択してくれていることもわかる。

委員：「住みやすさ」を売りにしていくのが今にあると思う。

委員：他の地域の事例を見ても、皆が四苦八苦している。人口増加にフォーカスすると「住みやすさ」をいかにアピールするかがポイントになると考える。

## (2) その他

特になし。

### ○議長（仁藤会長）

全体を通しての何か発言はあるか。今日の議題は終了となる。

基本目標評価シートの「審議会による検証結果」については、本日の意見を踏まえ、事務局にて修正し、会長が確認したうえで、後日郵送することを承諾。

### ○委員

今回は、社会動態をみると今年度は転入超過の状況にあるという良い話が聞けた。紀の川市の施策の効果が出ていると思うが、深掘りをしていくことが必要。原理原則であるが、「住みよいまち」に住みたいと皆が思っている。真摯に向き合っていってほしい。「住みよいまち」になっていくために、もちろん子育ては大切だが、子育て以外の要素も検証していく必要もある。

### ○事務局

第3回紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会の開催時期について報告

## 5. 閉会